

# 哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

## 千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

第157回例会記録 2021.7.8

### 《資本主義って何だ、社会主義はどうなった？ この先めざす社会は？》

「こういうテーマは議論の前提がしっかりしていないと意見交換するのも難しいなあ、と感じました。まず、いまの社会の何をどのように変えなければならないのか、ということから始めなければ…」

#### 問題提起 吉田千秋(主宰)

- ・東京では緊急事態宣言が発令されました。政府は観客を入れない形でオリンピック開催を強行するようです。当初よりこのような事態は想定していて、事は政府の目論み通りに進んだ様に見えます。開催の是非は議論されず、選手団の受け入れ等、大会準備の既成事実だけが着々と積み重ねられて行きました。このような政府のやり方には憤りを禁じえません。
- ・普段、政治や社会の問題が議論される際、“資本主義”とか“社会主義”といった言葉が当たり前のように使われています。これらの言葉に関して、例会参加者から、その意味を十分理解しないまま使っているの、その中味をもっとよく知りたいという声が聞かれました。今日は、先ずこうした要望に沿って、問題提起の中で資本主義や社会主義の言葉の意味や歴史を振り返ってみたいと思います。
- ・先ず辞書風に、言葉を説明をおさらいしてみましょう。広辞苑によれば、「資本主義(capitalism)は産業革命以降、確立した生産様式。生産手段を所有する資本家階級が、労働者階級から労働力を商品として買い、…余剰価値を利潤として手に入れる」経済体制となっています。マルクスは労働者から搾取されたものが資本家の儲けになると見なしました。資本主義社会は資本主義の生産体制を基にした社会と見なすことができます。この定義はあくまで生産活動を土台とした社会の仕組みに関わるもので、国家の形態とは別物です。資本主義の社会で、政治体制は共和制でも、君主制でも、独裁体制であることもできます。
- ・社会主義(socialism)は生産手段の社会的(国家ないし協同組合の)所有を土台とする社会体制です。それに対して資本主義は個人ないし個人の集まりが生産手段を所有する私的所有を土台とする体制です。マルク

スによる社会主義を特に共産主義と呼んで、非マルクスの社会主義、例えば、社会民主主義と区別する場合もあります。社会民主主義は議会政治を通じた漸進的発展を目指して、階級闘争を介した革命を放棄した改良主義の立場に立っています。社会主義という言葉は完全に立場を異にする政治運動、政治思想にも使われているので、注意する必要があります。ヒトラー率いるドイツのナチスは正式名を“国家社会主義ドイツ労働党”と言います。



- ・1989年ソビエト体制は崩壊して、東西の軍事的政治的対立の構図を意味する冷戦は終結しました。これを不自由の社会主義に対する自由の資本主義の勝利と見なし、平和と経済的発展の時代が来たと考えた人たちが沢山いました。しかし、冷戦後と呼ばれる新しい時代は残念ながら平穏で軍事的対立紛争の無い平和な時代となりませんでした。全ての社会主義国が終焉を迎えた訳ではなく、共産党の一党支配が続いている国も残っています。但し中国やベトナムは何れも資本主義の経済体制を導入して、社会の仕組みを大きく変質させました。
- ・問題は私たちが今どこにいるかということです。資本が無制約に世界を駆け巡る時代を迎え、現在、私たちは、地球温暖化という大量生産、大量消費の結果である地球規模の環境破壊に直面しています。したがって、資本主義が今のままでよいとは到底思えません。だが一方、社会主義も、少なくとも国家管理型(ソ連

型)は崩壊しましたし、成長主義を旨とする残存する国家主導の社会主義にも、未来社会を託せるとは思えません。個人的には新しい社会主義のビジョンの構築が

必要とされていると思います。皆で率直な意見交換ができれば幸いです。

## 意見交流

\* “小学生でも分かる社会主義”の解説の言っている、お金を平等に分けるって話がよく分からない。それぞれが違うことをやっていて、どうしてそうなるのか。逆にそれが本当に平等なことなのか。

\* 実際にはそうならない。差が無いわけではない。社会全体への貢献度、つまり能力や地位に応じた分配が行われると理解した方がよい。出来る限り平等、正当化され得る合理的な差が認められる。

\* 社会主義を考える場合、なぜ、存在した社会主義国家が失敗したのかをしっかりと検証する必要があると考える。多少の差はあれ、うまく行ったと言える例は存在しない。偶然ではなく、社会主義の構想そのものに本質的な問題があると疑ってかかる必要がある。まず、社会主義国家はどれも市民的自由及びそれを前提とした民主主義と非常に相性が悪かった。西側世界では個人の自由はいわばあたりまえだが、社会主義国家では著しく制限された。生産手段を国が所有し、生産活動を国が管理する社会主義国家では、標準モデルを作って、予め、人間一人ひとりに何がどれほど必要かを計画して生産した。一人の人間はパンを一日にどれほど食べるかを国が勝手に決めてしまう。この仕組みを常に維持するためには、個人の意思表示を反映する議会選挙の結果に左右されない、非民主的な権力が不可欠となる。自分が何を望むかを自由に表明することができなければ、人間が人間的であることはできない。

\* 政府が大量に国債を売って、福祉予算が膨張する国家財政を支え、日銀が政府の出した赤字国債を買い上げ、市場に資金を流通させている。国家の関与なしに日本経済は維持されない。自由な経済活動は国によってコントロールされている。日本はもはや資本主義経済の国ではなく、官僚に支配された官僚主義的社会主義の国ではないか。日本に限らない。世界を見渡しても、官僚の管理統制から自由な経済は存在しない。

\* その問題を資本主義、社会主義という言葉を使って論じると、今日のテーマに沿った議論を不可能になる。経済活動に国家が関与しない事を理想とする自由主義の議論と、社会主義が資本主義かという議論とは別次



元の問題ではないか。

\* 国による経済活動への関与の度合いが大きいか小さいかの問題ではない。生産活動を行うのはあくまでも企業である。企業は資本主義の下で、直近の市場における需要を想定して生産を行って、供給し利益を上げる。

\* 今の中国は、相変わらず共産党が支配する国であるが、経済の仕組みは市場の原理に基づいて私的企業が生産活動を行う資本主義である。

\* 社会主義という言葉は色々な意味に使われる。アメリカでは最近、社会主義を求める若者が増えていると言われる。彼らが求めているのは国家による社会福祉政策である。ソ連崩壊後、しっかりした議論がなされなかった。政治が経済に関わらないようにすることが一方的に良いこととされてしまった。ソ連型ではない社会の仕組みも可能ではないか。

\* 革命は理論に反し、資本主義的發展の不十分な後進的地域で起きた。共産党の支配は官僚組織による社会の一元的な管理統制で、生産力至上主義、成長主義による国家建設が目指された。

\* ソ連は1917年、第一次世界大戦の終盤、国民生活の窮迫化の中、労働者のストライキや軍の反乱で帝政が崩壊し誕生した。ソ連は、理想に沿わないものだったかもしれないが、今日当たり前になっている社会保障制度などを世界に先駆けて導入するなど、先進的な部分も持っていた。

\* 官僚主義の弊害は社会主義国家に限ったことではな

い。官僚の一部は、行政組織の運営という職務上の立場を利用して、個人的な利益を得る誘惑に抗することができない。また官僚たちはしばしば職権に触れる制度改革に抵抗して必要不可欠の行政改革の障害となる。

\* 余りにも軍拡競争などアメリカに対抗することに力を注いだ結果、ソ連は政治や経済に歪みが生じ崩壊した。アメリカが第二次世界大戦後、一国で世界経済の6割を占める強大な国家であった事を考えると、無理があった。中国は現在経済大国となって、アメリカに対抗しようとしているが、アメリカに取って代わることはできないのではないかと。リーダーシップを発揮するのに不可欠の信頼を得られない。

\* 以前のマルクス主義の社会主義発展のモデルは、生産力の基づく経済成長を社会発展の前提と考えるものだった。社会主義の発展は、先ず、発展の前期において、能力に応じて働いて、労働に応じて配分を受ける段階を狭い意味で社会主義と呼ぶ。発展を経て、必要に応じて配分を受ける共産主義と呼ばれる成熟期に到達するというものだった。経済成長を求めることにおいて、社会主義と資本主義の間に違いなかった。この問題の解決は、私たちが地球全体に対する責任という異なるレベルのモラルを持ちうるかどうかにかかっている。経済成長論を克服して、新たに社会の発展とは何かを考える必要がある。

\* これまで、社会生活の中心は企業の様な私的組織だった。斉藤幸平という若い研究者は、“コモン”という概念を使って、協同組合や共同体の様な、地域生活を共にする集団が政治や経済において管理責任を負う必要を訴えている。

\* ソ連や中国はまったく駄目だと言いきれるか。ロシアも中国も経済発展のかなり遅れた国だった。仮に問題点を度外視すれば、どちらの国も社会主義の体制の下で大きく飛躍を遂げたと言えるのではないかと。少なくとも、実際に暮らしている人たちはそう感じていると思う。

\* ネットを通じて東ヨーロッパの人たちと意見交換して

いる。連絡を取り合っている人の間に社会主義に戻りたいと思っている人はほとんどいない。国によって多少の違いがあった。ユーゴスラビアは指導者のチトーがスターリンと対立してワルシャワ条約機構に属さず、独自の路線を進んで、西側とも友好的な関係を保った。今日も社会主義体制が続くキューバは平等主義的で、医者と研究者と労働者といった職業による収入の差が大きい。ソビエト及び東欧社会主義国に比べ管理統制が緩い。個人の副業による金儲けも認めているらしい。

\* 世界にお手本になる国はないのか。軍隊を持たず戦争をしない国であるコスタリカはどうだろうか。経済的に豊かであれば、幸せに生きられるというものでもない。望ましいのは、虐待の無い、医療や教育の負担の少ない、子どもたちが生き生きしている社会である。

\* 権力を己の私腹を肥やすために使う政治家が余りにも多い。そのために、以前、報酬を放棄したウルグアイの大統領が世界一貧しい大統領として話題になった。

\* 世界のどの国が良い国家を考えるよりも、日本を少しでも良くすることを考えるべきだろう。日本国憲法は、民主主義の発展には憲法を精神を活かす不断の努力が必要だと言っている。共有、共同が重要で、共同体を活かすことが必要だと思う。

\* 皆がいわゆる持続可能な開発目標SDGs(sustainable Development Goals)を共有することが必要である。そこから自ずと経済や社会の仕組みがどうあるべきなのかということも明らかになる。貧しい小さな国は、単独では問題を解決できない。大きな国々が小国を助ける仕組みが必要である。

\* 昔の中国は全体に貧しかったが、皆が人民服を着ていて、服装について悩む必要がなかった。確かに中国は資本主義経済を導入して経済成長を遂げて物質的に豊かになった。でも富の偏在が著しく、取り残されて貧しい人たちが沢山いる。権力は不満が共産党の支配に向かわない様に、情報操作や反対派の締め付けを強化している。権力を批判するジャーナリストや弱者の権利を守ろうとする弁護士は官憲によって排除される。こういう無法な支配が長く続くとは思われない。中国はいずれ内側から崩壊する。

## 意見交流の最後に 吉田千秋

・人を動かし社会を変える力は何なのでしょう。人が行動を起こすのは、自分が生きていく上で欠かせないことが制限されている、妨害されている、容認できない不

平等、不条理に直面していると感じる時ではないでしょうか。過去においても、実際、人間はそうした状況に置かれた時に、自由を求める心が目覚めて、現状を変え

る、または変えさせる力を発揮してきました。

・今現在、私たちにとって問題である不自由、不条理は、政治経済の不条理、社会の仕組みの歪みによって引き起こされるものではないでしょうか。この社会の歪みの苦痛をはっきり感じれば感じるほど、世の中を変えようという力は大きなものになるでしょう。

・何をしてもダメ、何も変わらないと、無力感を感じさせられることも少なくありません。だからといって、世界で起こっている事に対して私たちが無関心になっては、社会は悪くなるばかりです。現実をしっかり自分の問題として捉えなければなりません。未来に目を向けて、私たちが今何をする必要があるのであるのか考える必要があります。

・ただ上の方で何かが起きるのを待っていても、何も起

こらないでしょう。でも私たちが  
できることがあります。地域で一人ひとりが一緒になって共同組合的な社会の仕組みを作って、下から社会を動かすことです。時に無力感を覚えることもありますが、一緒に力を合わせれば、乗り越えられるはずだと思われ  
ます。ですし、その先に私たちが望む社会像も描けるのではないで  
しょうか。

・今回は、その未来社会像について具体的な意見交換ができるまでに至らなかったが、また別な機会に議論したいと思います。



作者:O.Tsumugi

## みなさんの感想、便り、意見など

○ <前回の例会テーマに関連して>

いつも「哲学カフェ通信」ありがとうございます。私の子供のころと比べても世の中は変わり、便利になりました。私自身は車やスマホは持っていませんが、パソコンを使ってこのように通信を受け取ることができます。自分の都合の良い時間にネットバンクを使ったりNHKプラスで見たい番組をみたり、少し気になることがあればすぐに検索することができます。ただ、私の操作のせいなのか、少し不具合があるとセキュリティが素早く反応し、その原因究明と修復に睡眠時間を奪われることもしばしばあります。

通信はどうなるのでしょうか？ 私はまたついてゆけず途中下車しそうですが、なんでもアナログは体力がついてゆくのか心配です。車にはカーナビが装備されていますし、携帯は位置情報がわかりますから、選択できる人は利便性が個人情報かを選ばなくてはいけませんね。

また、会社でe-Tax el-tax e-Gov g-Bizと色々登録して使っていますが、それぞれ違うソフトを使っているため一元化といっても…。

これもどうなるのでしょうかね。見張られているのか見守られているのか受け取り方もいろいろかと思いますが、平和な日が続くことを心から願います。(T・U)

○オリンピックが始まった。家族は関心を持ってテレビ観戦している。私はスポーツに対して違和感がある。オリンピックにしても、勝利し、号泣している様をテレビはドラ

マチックに映し出している。しかし、一方負けた方もまた、影の方で泣いているに違いない。“喜びの涙”“悔し涙”同じ涙でも真逆の涙である。対戦することには違和感はなく、「勝った・負けた」とゲーム感覚で楽しめたら良い。負けた方は次は負けまいぞ、と張り切り腕を磨く。勝った方も次は負けるかも、と内心想う。お互い対戦できたことを喜び合えるそんなオリンピックなら大いに観戦し、楽しみたい。

元々、オリンピックの精神は“参加することに意味がある”ではなかったのかな。相手を蹴落として凱旋することに意味を見出すようになった。人間が元々持っている嫌な面が大きく意味あるものとして出てしまっているようで、私はオリンピックそのものが喜べない。コロナ禍でやるかやらないか以前の問題である。オリンピックだけの問題でなく、自分も含めて、熱中するあまり、脇が見えなくなり、方向を誤る傾向がありはしないか。

(hira sumi)

○「聖書」=マルクスの資本論は、①ソ連型解釈の歪曲の是正、②著書の中の今まで脇に置かれて問題とされていなかった事柄についての意味解明、③当時(150年前)の周辺事情及び諸学との関連の位置付け、④150年間の変化(例、日本では人口が3倍化。グローバル化など)に対する対応、補強、新しい展開などが進められている。「聖書」ではなく学門の書の立場をとり戻しつつある。(アダム・スミス)

○山歩きと時代小説乱読の日々を送っていた2年前、斎藤幸平さんの存在を知りました。弱冠32歳にして大学准教授のマルキスト。彼の編になる『未来への大分岐』(サブタイトルは「資本主義の終わりか、人間の終焉か」です)を読み、次いでその本の推薦文を書いている水野和夫さんの『資本主義の終焉と歴史の危機』を読みました。そして2020年9月に発売された『人新世の「資本論」』は3度回りほど読みました。年齢的ハンディもあり十分に理解できたとは言えませんが、気候危機を克服する新たなビジョンに出会えたように思います。それは、以前ぼんやりとイメージしていた、失敗した「社会主義」とは違う新しいコミュニズムであるように思います。

そんな折誘われて参加させていただきました。刺激的なひと時を過ごすことができありがとうございました。(北折信吾)

○今回の例会は、スッキリした理解が得られにくいテーマと議論だと思いました。資本主義、社会主義、どの体制に関わらず、支配者層と被支配者層は産まれ格差社会はなくなる、どうせ人間のやることだもの、というのが本音です。いま世界の主要国が共通して行っている経済政策はリーマンから始まってコロナでとどめを刺された感じの、中央銀行の資産の際限のない増大すなわち国家の借金の増大です。この状況は国家資本主義とか国家社会主義といわれる体制に重なる側面が多



く、行き着く先はファシズムのような気がします。オリンピックが始まって案の定、金メダル、金メダルと騒ぎ始めたメディアと一定数の国民の様子をみても、そのような雰囲気を感じます。(たなか)

○<自分たちの社会をどう作るか>

「産まれたときから周りに米軍基地があった」と沖縄で少女暴行事件があったときの訴えがありました。どのような歴史があったのか知る必要があります。特に人々の暮らしが脅かされていることには。

自分たちの生き様を求める人たちの自由な人間としてお互いを見る必要があります。勿論それが独裁、暴力的な支配があれば一定の物理的反対行動はやむを得ないでしょうが、基本は相互の人間の尊厳を保障する関係で社会関係を変えることができるのではないのでしょうか。(野口)

## <この一展>「バンクシー展～天才か反逆者か～」

(旧名古屋ポストン美術館)2021年5月17日～6月20日

かねてからぜひ観たかったバンクシー展に、5月下旬平日券を手に入れて名古屋金山駅前に出かけた。かなり多くの観客だったが、予想以上の出展作品をじっくり観ることができ、まさに至福のひとときだった。

バンクシーといえば、建物の壁、家のドア、地下への階段などに、だれがいつ書いたか分からない様々な風刺、抗議を示す絵(ストリート絵画)で知られている。しかし、この展示会を通じて、彼はスタジオでも独創的な作品を制作していることを知った。

この展示の「天才か反逆者か?」というタイトルは、あまり適切ではない。

というのも、天才と反逆者が相反しないし、どちらもバンクシー芸術の核心を示していないと思われる。

展示はいくつかの問題群に分けられて展示されている。それを参考にすると、彼が伝えようとした主要なメッセージは、まずは現在の資本主義がもたらしている消費主義＝浪費主義への痛烈な批判である。写真の一つひとつ掲載できないので残念だが、「チョコレート・ドーナツ」では、大きなドーナツを載せた運送車を何台ものパトカーが護衛している。「バーコード」では、消費主義の象徴であるバーコードを描いた荷物車から、バーコードの檻を破って虎が出てきている。



消費主義と並んで糾弾されているのは戦争である。最も直裁的な作品は、少女が爆弾をティベアのように抱いている「ボム・ラム」がある。さらに、ベトナム戦争で使用された爆弾である「ナパーム」と題された作品である。ロナルドマクドナルドとミッキー・マウスに手を引かれた裸の少女が描かれている。そして、最も有名な作品である「ガール・ウイズ・バルーン」は、赤い風船を手

放そうとしている少女を描いて、戦争のない世界への希望を示すものとしてシリア難民支援にも活用された。

そのほか、イギリス議会政治を風刺した「モンキー・パラメント」など、いくつも紹介したい作品があるが、ともかくハッとさせられ、驚き、感心し、考えさせられたすばらしい展示だった。  
(sensyu)

## ＜京都だより その4＞ 「仮装する京大生」

例年、京都大学の卒業式で、目立つ仮装(例えば月光仮面)をして出席する学生が何人かおり京都新聞の記事になります。東大ではこのようなことはなく粛然と執り行われるとのこと。

目立ちたいという強い自意識や、同じ京大生同士(エリート同士)の仲間意識を感じたいというのがあるのでしょうが、何か内向きなエゴイズムを感じます。

別の話で、私の学生時代、京大生の知り合いがいたのですが、ある彼は常に漫画本を抱え、待ち合わせ等ではいつもまるで見せつけるように読んでいました。他にも、いつも黒のゴム長靴にテッシュペーパー代わりのロールのトイレットペーパーを持つ人、風呂に長く入らず臭う人、洗っていない頭髪がゴキブリの背のように油光りする人等、汚さを競うような人もいました。

ここにあるのは「自分の本当の姿はとても賢く優れているので、漫画を読みふけても変な恰好でも汚くても平気」という意識であり、卒業式での幼稚と思われるパフォーマンスも同様ではないか、また、自意識が高い故にあえて目立つことをして注目を浴びたいという心理もあるのでしょう。

羽目外しや自己主張は大いに結構。しかし、上記のこれらの行為は、私からは、批判はしにくいけれどもとても

嫌味を感じさせるものに思います。

卒業式のこと  
で言うと、  
学生最後の時は、私

達の税金で運営もされている大学で学んだことを静かに振り返り、今後も次の社会を担う礎になることを謙虚に決意する場ではないか。学生時代に得た学識は周りの力(税金や「学生さん」と温かく見る目等)に支えられたということも忘れずにいてほしいものです。

一方、2015年夏、安保法制に反対する京大での集会で、山室信一教授(当時)が、「安保法制に反対するママの会」の西郷南海子さん(当時院生)のスピーチの後を受けて「このように、京大は学生が優秀で教員はそうでもない」と言ったのを思い出しました。こちらは学生を褒め自らを笑う、但し強い誇りをにじませる楽しい冗談だと感じました。  
(hiro)



## ＜世界一周貧乏旅 その23＞ 「みんなサッカーが好きらしい」

スポーツを観ることに興味がないのです。僕は昔から、スポーツをしている人たちを眺める、という行為が苦手で、中学卒業前のバスケット最後の試合中、ベンチで応援したふりをしながら退屈ですやすや居眠りしてしまっただけです。

さて、この冊子が出た頃には東京オリンピック2020は開催されているんじゃないかと思われま。揉めに揉め、荒れに荒れ狂っている今回のオリンピック、『安心安全』という言葉は中身の無いシュークリームのように空虚で、今日のコロナ禍の状況で世界中の人を呼び寄せてオリンピックを開催をするなんてことは、それこそが全く矛盾したことをし

ているじゃないか!と考える人は多いかなと。ただまあ、そもそもスポーツにもオリンピックにも興味のない僕は、さっさとワクチンを打ってほとぼりが冷めるのを待とうかなあとおぼんやり考えております。

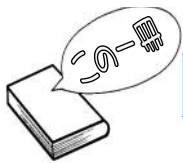


そんなスポーツの祭典もやはり世界中では人気があり、皆試合を観て熱狂しています。とりわけ、どこの国に行ってもサッカーの人気は凄まじいものでした。アルメニアで安宿に滞在中、夜になって他の宿泊客から「君は日本人だろ？ 今晚サッカーW杯で日本戦があるよ！ テレビ観るだろ？」と興奮気味に話しかけられましたが、例のごとく興味が湧かず「いや…僕は眠いから寝るかな…」などとあしらいさっさと寝てしまいました。午前2時ごろ、テレビのあるリビングからは YEAHHHH や WOOOF0000 などと歓声が聞こえてきましたが、盛り上がり反して僕は顔をしかめ悪態をつきながらさっさと眠り直しました。

またイスラエルに滞在中は、昼間にミサイルを撃ち落とす音を聞いて肝が冷えた日中でしたが、その夜に外へ出歩くと少し開けた広場に人が集まっており、近づいてみる

と椅子が並べられてあり50人くらいが大きなスクリーンの前でなにやら盛り上がっている様子でした。そのスクリーンに映し出されていたのはまたもサッカーW杯で、人々は立ち上がって手を叩いたり歓声をあげたり、アルメニアの時と変わらずの盛り上がりでした。しかしながら、やはり僕は興味がないのでさっさと帰って眠りにつきました。ですが思えば、昼間に彼らの頭の上をミサイルが飛んでいたというのに、夜にはサッカーで盛り上がるというのも中々に神経が太いなあと感動したりしました。

サッカーはサッカー、ミサイルはミサイル、と爽やかに割り切った気持ちでスポーツを観て楽しめるのも、ある意味ではいいことなのかもなと思ったりします。ああじゃあ、コロナはコロナ、オリンピックはオリンピックと割り切って楽しむ…いや、それは僕には無理かも。 (カモノハシタニ)



『白金猿—ポスト安倍政権の対抗軸』(かもがわ出版 2018)

本書は、白井聡、金平茂紀、猿田佐世という、気鋭の論者三人が行なった3回の鼎談をまとめたものである。

第1回の鼎談は2017年の9月4日、都議会議員選挙で小池百合子知事が率いる都民ファーストの躍進と自民党の大敗を受けて行なわれた。2回目は同月29日安倍首相が衆議院を解散し、総選挙へというなかで、3回目はその選挙で自公が定数の3分の2を占める一方、野党は再び分裂・再編を繰り返すという事態のなかで行われている。この選挙で安倍政権は最長不倒政権記録を達成したが、国民にとってその意味するところはいかなるものであったのか。論者3人にとってその意味するところは、「状況は間違いなく破局へと向かっている」。この認識は安倍から菅に代わった今日でもおそらくは変わっていないだろう。

三人の論者の関心事の一つは安倍の対米従属路線である。その対米従属路線が沖縄の犠牲の上に築かれてきたことは、アメリカの覚えがめでたいかどうかをよりどころとする安倍には「知ったことか」である。自分のレジェンドづくりにしか関心がない安倍は、対抗勢力であった民主党政権の不要な失敗に助けられて、最長不倒政権を樹立する。だが、権力の座にあぐらをかいたそ

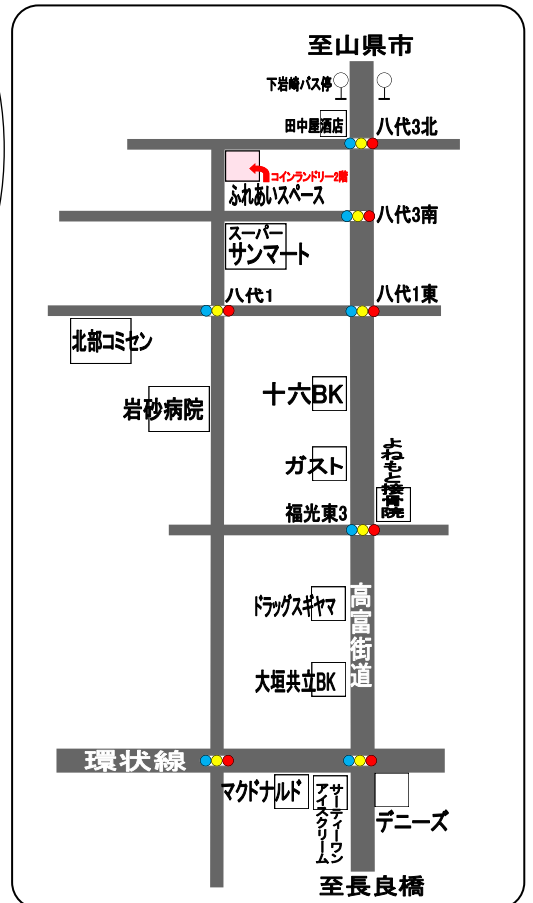


の結果は国政の腐敗と私物化であった。対抗勢力の不在ないし弱体化もあって、対抗軸が見えなくなっている今日、出口をどこに求めるか、3人の鼎談はその点に移る。ただ結論はそう簡単には出てこない。

例会会場案内

例会は、ポポロのふれあいスペースです

例会への事前申し込みは不要です



論者3人のうち2人は1977年生まれの手若手であるが、その彼らが論ずる若者論には、なるほどとうなずかされるところがあった。なお、あとがきによると、タイトルの白金猿は‘はつきんさる’と読む。音を共通する別の漢字(発禁)をそこに当てはめると、ある一つのメッセージが浮かび上がってくる。忖度政治はそれをソフトな形でおこなっているということであり、それがハードに変わ

る時がまじかに迫っているというべきか、その動きを封じる道はどこにあるか、この動きをどうすれば押し返せるか、論者と共に真剣に考えなければならないところにいまきている。  
(Kirai Abe)

\* なお、鼎談をリードしている金平茂紀さんは、今秋11月3日の「ぎふ平和のつどい」での記念講演者です。

## 例会は19:00~21:00です。

会場は、ふれあいスペースです。コロナ警報で中止の場合あり、テーマも変更あります。

### 2021年後半 哲学カフェ、第26期の予定

第158回例会 8月12日(木)	<b>休止します</b> お盆とコロナ感染対策のため
第159回例会 9月9日(木)	「東京オリンピック強行、どうだったのか？」 * 加速するコロナ感染増と医療危機の中での強行。さまざまな問題が露呈した。 * オリンピックのもう開催しないなど、あらためて抜本的に見直す必要があるようだ。
第160回例会 10月14日(木)	「テレビ番組とどう向き合うのか？」 * テレビの衰退が言われているいま、本当に楽しく、有意義な番組はあるのか。 * 報道番組、ドラマ、ドキュメンタリー、バラエティ番組等、推奨したいものは？
第161回例会 11月11日(木)	「総選挙はどう仕組まれ、その結果は？」 * 安倍政権を引き継いだ菅政権は、無策・失策続きで、総選挙は勝算が見えない。 * どうとう議員満了まで引き延ばし。五輪強行、ワクチン頼みの結果はどうか？
第162回例会 12月9日(木)	未定。現時点では、日米・日中関係等を検討中。

**哲学カフェの運営資金の協力も、よろしくお願ひします。口座記号・口座番号 00810 1 142912**  
**加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫**  
**「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !! <http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>**

### わいわいがやがや アラカルト

★先月、満80歳を迎えた。72歳までは現役として働いてきたが、それ以後の8年間は趣味とボランティア活動に明け暮れてきた。80歳を超えると、ボケ防止をどうするか、課題となる。

★92歳の先輩の話によれば、これからは、「キョウイク」と「キョウヨウ」を積むことが大事とか。「教育」と「教養」をまだまだ積み上げるなんて、「それは無理！」と思ったのであるが、彼氏曰く、「今日行く所がある。今日用がある。」という日々をすごすことが大事ということであった。

★それならば、今のペースを持続すれば良いということで納得。と、同時にやはり重要なことは、健康管理だが、去年は生まれて初めて、長期入院、手術後、何とか生還。自分の人生にもまさかの厄災が降りかかることを知った。

★コロナ禍の最中、集中豪雨で洪水や土砂崩れで多

くの人命が失われた。被災者は「想定外だった」、「まさか自分の家が…」と絶句。本当に心が痛む情景を見るにつけ、これは単なる「自然災害」ではなく「人災」だと、言わざるを得ない。

★宅地造成などの土木工事も杜撰で、災害予防の対策が取られていなかったのは、人命軽視で、重大な問題だ。

★日本は災害頻発国。コロナ禍は未だに終息せず、緊急事態宣言のさなかに、巨大台風や地震が追い打ちを掛ける可能性もある。この可能性は、想定外としてよいはずはない。にもかかわらず、オリンピックを中止しようとする日本政府に、憤りを感じる。

★「災害は忘れる間もなくやって来る！」そして、必ず犠牲者を伴う。そんな時、かの国の宰相のように「100万人の犠牲者も多くはない！」と言い切るのでしょうか？  
(島田幹夫)

